

特集「流通——新しい情報システムの方向」の発刊によせて

稲 泉 成 彦

未曾有の消費不況と言われる中での発刊となった。経済企画庁長官の「消費の拡大が経済再生の鍵であり、消費者の理解をお願いしたい。」主旨の発言がマスコミに登場し、政府による商品券配布や全国規模での消費税5%還元セールが国民の話題となっている。たしかに、消費税率引き上げに対する駆け込み需要の反動を端緒とした消費の冷え込みは長期化し、経済活動の終端となる流通産業を低迷させ、国内経済活性化の展望が見出せない要因の一つとなっていることは否めない。

日本の流通産業は、1980年代に入り本格的自由化と言う国際的変革（Globalization, Mega Competition）の荒波を受け、大手スーパーマーケットに代表される、流通コスト低減を目指した全国展開が加速された。また、個人的価値観を優先する団塊の世代が消費の主役として登場したことにより、消費者性向の多様化が進み、通信販売等の新たな流通形態の登場を促した。この大きな活性化のうねりは、折りから始まったバブル経済と相俟って国内産業構造を流動化し、流通サービス業（第3次産業）を最大の分野に浮上させた。このような状況の中で、発展し急変貌する企業活動を支える情報システムは、消費情報を適確に把握できるPOS（Point Of Sales）や製造/物流/販売を連結するEOS（Electric Order System）等を整備し、社会の隅々まで浸透した。

1990年代に入って、流通業界は更に大きな変貌を遂げつつある。プライベート・ブランド商品の開拓における製造業と流通業との競合に代表されるボーダレス化（Border less）が進行し、異業種からの参入も盛んになった。画一的大量消費からの離反は益々進み、環境との共生（Ecology）や高齢者対応（Barrier Free）等の新たな価値基準が提起され、商品の多様化と短サイクル化が加速度的に要求される結果となった。一方、世界的規模で整備が進む情報通信基盤は、コンピュータの利用を消費者の身近なものとし、従来の大量集客型商品提供（Product Out型）から、インターネット販売/通信販売/コンビニエンス・ストア/宅配等に見られる消費者要求型商品開発（Market Out型）への流通業の主役交代を感じさせる。なお、今後実用化するであろう電子マネーおよび電子商取引（EC/CALS）は、その流れを決定的にする可能性を秘めている。このことは、大木（経済活動）= 根（製造）+ 幹（物流）+ 樹液（金融）+ 枝葉（販売） 果実（消費）から、熱帯雨林（経済活動）= 多種多様な動植物（製造）+ 相互依存関係（物流、金融）+ 狩猟採集活動（販売、消費）への変貌に喩えることができよう。

これらの要求に応え流通業の発展を支えるため、情報システムにも一層の向上が要求されている。その第一は、進化する情報処理機器を活用した開発運用コスト削減であり、「ネオダマ（Network, Open, Down Sizing, Multi Media）」と通称される情報処理技術や外部運用委託

(Out Sourcing) 等である。第二の要求は、製販一体システム (Supply Chain Management) と呼ばれる技術であり、消費者 (販売現場) の情報を最優先かつ徹底的に活用することにより、商品サイクル短縮および在庫削減 (不要) を実現し、競争に勝ち抜くことを目指している。この基盤となるものが、前述の POS, EOS, EC/CALS であり、DWH (Data Warehouse) の構築と強力な情報分析ソリューション群である。最終的には、企業資源計画 (Enterprise Resource Management) との連携が鍵となろう。第三 (最後) の課題は、絶え間無い変貌に耐え得る進化の速いシステム体系であり、必要なソリューションを必要な時点で組み込む (Plug & Play) ことにより実現される。このためには、オブジェクト指向技術による徹底した標準化と部品化や JAVA 等の採用による機器依存性の排除等が要求される。

重厚長大から軽薄短小への脱皮に喩えられるこれら課題が満足されたとき初めて、情報システムは消費者から製造現場迄を直接結び付ける事ができ、時間および空間を越えて全員の意志が反映できるものとなる。21 世紀を見据えた新しい情報システムの開発が待たれる所以であり、本誌が不況脱出のため日夜ご努力しておられる皆様の一助になれば幸いである。

最後に内輪事であるが、この種の刊行は 1 年程度前に企画される。今回の発刊に際し、これ程の消費状況悪化とは想像できず、正直焦りを覚えた。今更ながら、ビジネス・スピードを向上させる重要性を痛感した次第である。

(ビジネスソリューション三部長)